

早稲田大学 国際教養学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	大問4の構成は例年通り。設問数は昨年の42問から45問に増加。06・07年と出題されなかった地図問題が復活した。難易度は全体としてやや易化した。昨年、まとまった出題のあった現代史は大幅に減少し、いままであまり出題されてこなかった中国現代史からまとまって出題された。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	古代オリエント世界の都市	全体としては標準的。一見難しそうな問2の「エクバタナ」も結局は「最古の鑄造貨幣」でなんなく正解が得られる。問4のダレイオス1世のペルセポリス常駐は、直接知らなくても他の文に比べ文脈の「いかがわしさ」が嗅ぎ取れるはず。問8は出題ミス。	一部難
	大航海時代とヨーロッパ勢力の アジア・新大陸進出	問1のガマの航路は地図問題の変形。ガマは東アフリカからインドに直行している。問2以降の時代の前後を問う問題はかなり答えにくい。とくに問6のスレイマン1世即位(1520)とカール5世即位(1519)の年代順配列は常軌を逸している。空欄補充2問はやさしい。	難
	欧米の近代国民国家の発展	問1(イ)の内容はロックではなく、ルソーの主張。問3は「ブラジルで砂糖プランテーションを経営」は正しいが「大西洋奴隷貿易には参加しなかった」が間違い。問10は、ルイ16世処刑(1793年1月)と徴兵制施行(93年2月)の前後を問う。細かすぎるようだが、「国王処刑」「第1回対仏大同盟」「徴兵制」の流れをつかんでおけば楽に正解できる。	標準
	中国共産党史 アジア・アフリカ史雑題	問3の中国地図は要注意。一般に世界史で扱う地図は行政区画を無視して河川を強調することが多く、省域のみで都市を選ぶとなると勝手に違った人も多かったはず。重慶を四川省とみなすと混乱させられる。現在は直轄市で四川省とは別扱いである。問2の「四つの現代化」はやや細かい。問6のトンブリー朝は難しい。問9の義和団事件の8カ国連合軍は定番。	標準

〔総合コメント〕

昨年もそうだったが、容易に得点できる問題とそうでないものとの二極化が激しい。高得点を得るには、まずは標準的問題でのミスを絶対に犯さないこと。そして、難しい問題でどこまで食い下がっていかれるかである。全体的にいわゆる「読ませて」「考えさせる」問題ではないので、簡単なところはどんどんやって、時間と労力を難問に集中させるべきである。難しい正誤ポイントに地理的知識を問うものが目立つ。普段の学習で地図を頻繁に参照するようところがけたい。また、年代配列問題は定番化しているので、年代そのものをたくさんおぼえておくのは当然だが、事態が急展開する時代について「流れ」をしっかりと把握しておくことが大事。九カ国条約・八カ国連合軍などで、どちらかというマイナーな国を入れ替える問題には確実に得点できるようにしたい。同じ発想でいくと、NATO成立時の12カ国、コメコン成立時の8カ国、欧州統合過程で、いつどのような加盟国があったかなど要注意である。